

# ☆放課後子ども教室☆～1年を振り返って～

1年間の総まとめとなる3月は、子どもたちも1～5年生は次の学年へ、6年生は中学生へと新しいステージに上がっていく準備の時期です。別れと出会いの春はもうすぐそこまで来ています。

3月のプログラムでは、5年前に発生した東日本大震災の復興応援として、『マグネットぬりえプロジェクト』という活動に参加しました。震災において大きな被害を受けた岩手県釜石市。津波や地震で家を失った方は今でも仮設住宅で生活をされています。同じ形、同じ色で立ち並ぶ仮設住宅。仮の住まいではあるけれど、そんな仮設住宅も“自分の家”と呼びたい！という思いから、マグネットアートで仮設住宅の外壁を飾るというプロジェクトを提案した高校生がいます。昨年の12月にその高校生が北海道に来た際にお話を聞き、マグネットづくりを体験させてもらいました。デザインの中に必ずハートマークを入れるというルールがあり、作り手側も色々な工夫ができるのがとても楽しかったです。実は釜石市の鶴住居地区・栗林地区でも厚真町と同じように放課後子ども教室を仮設住宅の集会所などを借りて開催しており、いつか厚真の子と釜石の子が交流できたら良いなと考えていました。そのきっかけにこのマグネットづくりのお手伝いできないかと相談したところ、材料を送っていただけになりました。子どもたちと作ったマグネットは、想いと一緒に釜石に返送します。少しでも釜石を応援するチカラになればと思います。

毎年、この時期には1年間の活動を子どもたちと一緒に振り返るプログラムを行っています。活動の様子を撮りためた写真を見ながら、あんなこともあったね、こんなこともして遊んだね、と1年の思い出を共有しています。新入生として初々しかった1年生もすっかりお兄さん・お姉さんな顔つきになりました。子どもたちがぐんぐんと成長していく姿に、私たちスタッフも鍛えられ、励まされてきたことを感じます。放課後子ども教室が始まってこの3月でまる4年が経とうとしています。今の6年生はまだ低学年の活動日に参加していたのに、気付けば小学校卒業を迎えます。また、初年度に送り出した卒業生はこの春から高校生に。非常に感慨深いものがあります。地域の資源と子どもたちの接点も年々増えていき、お互いに顔が見える関係を少しずつ築けているのかなと思っています。まだまだ私たちスタッフの力不足な面もあり、たくさんの方々の手を借りながらですが、この1年も子どもたちに本当に様々な体験の場を届けることができました。続けることのおもしろさ、続けることのおもしろさを感じた1年でした。これまでの活動をしっかりと振り返り、関わる人にとってプラスなことがたくさんできるようなプログラムを、5年目の放課後教室でも作っていきたいと思います。地域の皆さま、保護者の皆さま、そして、元気に「ただいま！」と帰ってきてくれる厚真の子どもたちに感謝を。ありがとうございました。

